

2008年3月21日発行

エコ・リサ通信

NPO法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会会報
発行人 高木 康夫

“リスクコミュニケーション”って何？

私たちは、様々な化学物質に取り囲まれて暮らしています。P R T R法で指定されている“環境や身体に負荷を与える物質”の中で、家庭から多く排出している代表的なものは、合成洗剤と衣料用防虫剤や殺虫剤に含まれています。

製品を製造する段階でも、多くの化学物質が使用されていますが、埼玉県でもっとも多く排出されているのが、トルエンです。これは、主にガソリンの成分やペンキや印刷用のインクに溶剤として多く含まれています。

化学物質による環境リスクを低減する取り組みを促進するために、事業所と行政と市民が、共に話し合う場を持つことが、とても大切になっています。

リスクコミュニケーションは、通常、事業者が主体となり実施するようですが、市民が事業者呼びかけて開催することも可能です。



白岡工業団地にある (株)佐伯紙工所へ

2007年12月20日午後、白岡町の『もったいない会』の遠藤誠さんに誘われ、リスクコミュニケーションを初体験、近所にある工場が、どのような化学物質を運び込み、どのように取扱い、管理・保管しているかを確かめてきました。

出席者は、事業者として佐伯紙工所白岡工場のISO管理室長の菅野氏。行政は、埼玉県環境部青空再生課2名、東部環境管理事務所大気水質担当2名、白岡町生活環境課3名。市民は、もったいない会4名、白岡地域住民2名、蓮田市1名、久喜市2名でした。

埼玉県で排出されている化学物質の概要説明

まず、青空再生課から埼玉県における化学物質の排出状況について説明があり、**埼玉県は、出版・印刷業が多く、トルエンの排出量は、静岡県に続き、全国２位(平成１７年度)**。ほとんどが、大気に放出されているとのこと。

東部環境管理事務所管轄内市町村では、P R T R法指定物質の合計排出量の多いのは、蓮田市(埼玉県内7位)、以下行田市(8位)、幸手市(10位)、白岡町(11位)、菖蒲町(14位)と続く。

企業別では、蓮田市の化学工業（埼玉県内6位）、幸手市の出版印刷関連産業（8位）など、日常意識しなかった排出量の多い工場が自宅近くに存在することにびっくり。

工場からの化学物質排出状況の説明

次に、佐伯紙工所の ISO 管理室長から、会社概要の説明があった。

主な製品として、ラミネート加工、プラスチックフィルム、アルミ箔、紙等の薄いフィルム状のロール素材を貼りあわせた複合包装資材を生産。

環境対策として、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助を受けて、蓄熱式溶剤排ガス燃焼装置などを整備し、空气中に放出する有機化合物を大幅に削減したとのこと。

導入当初は、ライン変更ごとにトルエンの量を測定、毎日エネルギーのメーターもチェックし、CO₂削減量を測定した。結果は、揮発性有機化合物（VOC）の約 82%を回転蓄熱式VOC処理装置で燃焼させ、従来大気放散していたVOCを 20%以下に、燃料ガスを熱量費 50%弱削減できた。



ガス漏れを検査する穴



<http://www.townnavi.info/eco-risa/>

エコ・リサ HP 委員会ページからご覧下さい。



工場の門にある危険物の表示

工場内の様子をみんなで確認

そして、いよいよ、工場見学。

製品は、工場内のクリーンルームの中でラミネート加工されているのを外から見学した。

トルエンが、グラビアコート前後から各乾燥オーブン間での溶剤蒸発により発生するため、設置以前は、廃棄ダクトを介し、全量大量放出していたが、現在は、トルエンを上部のパイプで回収し、隣接する工場脇に設置の蓄熱式溶剤排ガス燃焼装置へ送り、燃焼時の熱をクリーンルーム内の乾燥工程に再利用している。工場内は、全く溶剤のにおいはしなかった。

蓄熱式溶剤排ガス燃焼装置は、とても大きなもので、設置するときは、了解を得て隣接工場の駐車場から設置工事をおこなったとのこと。

工場脇には、タンク車から地下にトルエンとサクエチレンを保管する蓋があった。

見学後の意見交換

地域住民：どのような安全対策がなされているか知りたい。

工場：危険物取扱い主任者が5名おり、3年ごとに研修を受けている。実際の火災を想定して、消火班は、粉でなく水で消火・防災訓練をおこなっている。

エコ・リサイクル交流集会2008 ダイジェスト版

2月23日(土)さいたま市民会館うらわにおいて、交流集会 2008 が開催されました。午前中には基調講演を行い、午後からは3つの分科会に分かれ、150名を超える参加者は活発な意見交換を行いました。



金子副部長



高木会長



後藤会長

主催者側として、埼玉県環境部金子副部長と埼玉エコ・リサイクル連絡会高木会長から挨拶の後、社団法人日本青年会議所関東地区埼玉ブロック協議会后藤会長より来賓挨拶がありました。

主催 埼玉県
NPO法人埼玉エコリサイクル連絡会
会場 ホール 開会10時(受付開始9時30分)

『エコ・リサイクル交流集会2008
「行動しよう!ごみ削減はリデュースから」』

基 調 講 演

テーマ：暮らしのごみが、川から海へ！！

講師 小島あずさ 氏

(JEAN／クリーンアップ全国事務局代表)

JEAN(Japan Environmental Action Network)の一番大きな活動は、I C C (国際海岸クリーンアップ)のアメリカ発全世界でいっせに行う市民参加型調査の水辺のクリーンアップ活動を、日本で呼びかけコーディネートすることです。昨年、I C C 60 品目のごみの個数を数える調査は、日本中の海岸沿いの市町村の9割以上、3200箇所でおこなわれました。どこに、どのようなごみがあるのか、実態が把握されつつあります。



海辺のごみは、6割から8割が河川由来のものです。ごみが直接川に捨てられるのではなく台風や洪水などの大型化の影響なども受け、一部が川に流れ込み、プラスチックごみは分解せずに劣化し海岸に積もっています。大量なので全てを回収するには人手と費用が足りず、また、清掃して集めたごみも、塩分を含むためリユースできず、ほとんどが焼却されずに埋め立てられるので、ごみは引越すだけで、減るわけではありません。

北西ハワイでコアホウドリのひななどの海洋生物を死に追いやっているのは、黒潮に

のって4000キロも流された日本のごみです。死骸のお腹の中には、靴べら・スティックのり・おもちゃ・ゴルフボール・ヘアブラシ・サインペン・合成洗剤やマヨネーズのキャップ・広島の特産品の養殖に使用されるプラパイプなどのごみでいっぱいです。



有効な対策がない今、私たちが出来るのは、発生抑制をし、今あるごみを拾うということです。韓国では対応が早く、流出しやすい漁業系ごみについては“記名登録制”が義務化され管理を行い、回収したごみの処理費を漁師が負担するのでは、漁師たちは再投棄してしまうので、国費で買い取ることでなっています。

今年目標として、陸上からの視点でごみと取り組んでおられる団体と具体的につながりあう、すでにデポジットを取り入れている4つの国では、散乱ごみには効果があると検証されているので、特に、デポジットを進める活動をしている団体とつながりたいと考えています。(報告者：大前 万寿美)

JEANの活動や被害についての詳しい内容は、県庁ホームページをご覧ください

テーマ：ゴミを知ろう委員会の総まとめ
「ごみ処理のわかった事とこれからの課題」

例年参加して頂く顔ぶれも多数あり、講演以外にも活発な質問や意見が行なわれた。当分科会ではこの数年間ゴミを知ろう委員会が、調査研究して課題を発表し続けて来ました。今日の発表はその流れの中で到達した課題である事を説明し、過去の流れを簡単に伝えた。

まず、当会の中澤啓子理事が「平成17年度の埼玉県のごみ処理費用について」を説明、環境省発表の『一般廃棄物処理実態調査結果』から17年度の埼玉県内自治体のごみ処理費用を解析し、自治体間の違いについて考察した結果をグラフに示した。1人当りのごみ処理費が高い自治体は安いところの3倍にもなっているが、ゴミを多く出す自治体の負担が多いとは限らない。トン当たり原価でみると1人当りのごみ排出量の少ない自治体の単価が高い。また地域により排出量が倍以上も違いがあるところも見うけられる。また複数の自治体による組合の分担金にも大きな開きがある。しかし、各組合も収集内容や内規の違いにもより一概に比較できない事も調査の中でわかった。それで2つの組合から話を伺った。

「久喜宮代衛生組合の現状と今後の課題について」と題して久喜宮代衛生組合総務課鈴木昌利氏に組合が取り組んでいることについて発表して頂いた。当組合は平成6年という早い時期にダイオキシン対策としてプラスチックの焼却をやめ発生抑制に努め、環境負荷の低減とコスト削減に取り組んだ。事業所を含む生ゴミの堆肥化と焼却ゴミに含まれる雑紙の資源化を進め、平成18年度の「リサイクル率」は45.1%を達成できた。全国的に見てもトップクラスの数値で、これは当組合が焼却灰を民間企業により再資源化しているのが大きく寄与している。しかし、生ゴミの堆肥化はコストが2.5倍と高くなり施設の立

地（臭気等）や堆肥の販路の問題など課題も残されている点を発表された。

続けて「蓮田市白岡町衛生組合のごみ処理の現状と今後の課題」と題して蓮田市白岡町衛生組合廃棄物対策課黒崎晃氏に主に費用の面からの取り組みについて発表して頂いた。当組合の1人当りの平均排出量は854g/人/日で埼玉県平均の1065g/人/日より少なくこの少なさは全国的に見ても上位に位置すると考える。理由は有料指定袋の効果か。歳入は、組合分担金が全体の82%、手数料収入が13%である。歳出は維持管理費の41%収集費の30%。平成14・15年桶川市の委託を受け処理したが経費は増加しなかったことから広域ブロック化を提唱している。プラスチック類は燃料削減のため焼却し、1人当りの経費は全国平均の約半分である。容リ法に遵ずると1人年間3500円の負担増になると試算した。

最後に「埼玉県内自治体のごみ処理原価の把握状況に関する調査報告」と題してゴミを知ろう委員会を代表して竹村元宏氏が調査結果を報告した。県内自治体のごみ処理原価の公開状況と原価の把握状況を知るためにアンケート調査した。結果から処理量については12種類、処理費については5種類公開していた。ゴミと資源回収品全体は国にも提出しているので全部の市町村が公開している。しかし、県内各自治体は処理費用については市民にほとんど公開しておらず、ごみ処理原価の把握状況は不十分である。ごみ処理のコスト分析を行い、経済的側面からの合理化を考えるべきである。そして自治体はごみ処理コストを公開し、ごみ処理の合理化に市民の参画を促すことで、市民が自治体と一緒に、より良いごみ処理の方向を目指すことができる。調査結果を参考に進めるよう求める。

（報告者 上領）

《第2分科会》

「家電製品の最新動向とエネルギーの特徴について」

講師：三菱電機㈱リビングデジタルメディア事業本部 渉外部技術部長 菅原作雄氏

菅原さんは、空調機器などの研究開発部門に在籍されていたので、家電製品の性能や省エネ技術の進歩についてお話があり、エアコンは省エネ性能を比較するとこの10年で約40%削減されている、日本のヒートポンプ技術は世界No.1で、今後も進展は期待出来るが画期的な進歩の余地も小さいなどの説明がありました。そして、製品を使う側の『人間』の感応や体感メカニズムについても触れ、人間は、暑さに対しては汗をかくという機能で一定対処出来るが寒さにはさほど対応力がないので寒さに敏感であり、そのため冷房において空気の揺らぎは快適感を生むが、暖房においては寒く感じるなど、興味深いお話をいただきました。

より優れた空調機とは、敢えて人がその室温変化に気づくよう、温度変化をつけた室温制御の能力が必要なのではと、人間が本来持っている暑さや寒さから身体を守るための体温調節能力までも踏まえたお話でした。

後半は、エコ・リサ副会長の土淵さんの環境

クイズを楽しみながら、参加者の湯たんぽによる部分暖房のアイデアや、生活



の中での様々な工夫など、活発な意見交換の後、エコ・リサの委員会活動を紹介し、環境活動に関する情報提供をお願いしました。

(報告者：斎藤・大前)

《第3分科会》

「創ろう！地域に根ざした3Rの活動拠点～市民が集う

リサイクルプラザ機能を各地に!～

はじめにエコ・リサ園田さんより主旨説明と市町村組合アンケート報告を行いました。不用品リサイクルにおける取り組みを調査し、それぞれの施設がまちまちな内容となっていたので、調査をする施設の定義を決めました。①市民開放の啓発施設であるリサイクルプラザ②不用品の常設展示・販売・リサイクルショップ③不用品の保管施設、年数回の展示・販売④その他の3R関連の啓発展示、販売など。

その施設から限られた時間で調査した14施設を資料としてまとめ、そのうち実際見学に行った8施設の概要を写真で説明しました。

次に東京都北区からNPO法人北区リサイクル活動機構理事長 竹腰様を講師に迎え「エコ広場館活動を通して」と題し、開設までのプロセスや苦労話、市民や行政の役割、協働で運営している重要性をお話いただきました。またたくさんのボランティアの方で運営され、リサイクルを通して自己実現や社会参加、コミュニティということを大切にされておりました。

次に川口市廃棄物対策課 渡部様より「川口市リサイクルプラザ」についてご説明をいただきました。

プラザの機能として、環境学習の啓発施設・分別の再利用のためのごみの資源化施設、選別保管ができる機能としての施設・環境学習として展示ホールやショップなど市民に紹介する施設・余熱利用施設などをご紹介いただきました。

最後に民間での事例としてエコ・リサ原田さんより「エコハウスしずおかとおおみやリサイクルマーケット」の話がありました。また、3Rについての意見交換も活発に行われました。

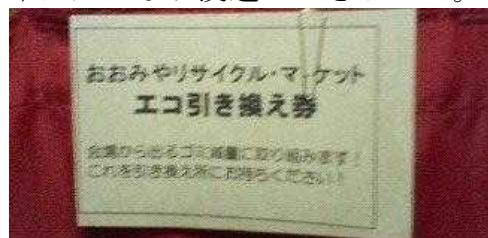
(報告 石川)

おおみやリサイクル・マーケットはエコ！

16年目のおおみやリサイクル・マーケット（年4回開催）は去年12月から、マイバッグや食器の持参者に優遇策を取り始めて「エコマーケット」に一步近づきました。

団体参加のフリーマーケットで、キーワードの一つは「リサイクル」、県や市の後援も資源循環や廃棄物の課を通してです。

名前に恥じない催しにしなければと思います。続けて幾年月。残り二つのキーワード「障害者」「ボランティア」に関わる団体の意見もまとまってきて、第60回の記念事業として袋やお箸を断ったお客様にエコ引き換え券を渡す試みが実現したのです。2回目（3月2日）にはかなり浸透してきました。



リサイクル自転車、お餅つき、豚汁にお赤飯など様々な要素で、古着主体のフリマとは一味違う、地域に密着した季節のイベントとしてしっかり定着しているおおみやリサイクル・マーケット。

去年から会場の真ん中のテーブルを増やしたら、癒しの場所として好感度アップ？

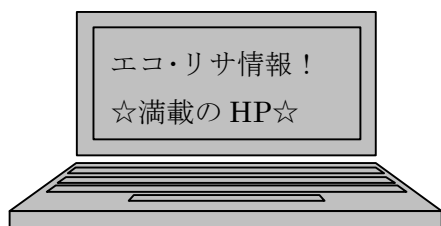


お客様の会場内滞留時間が延びました。

我が家の不用品を減らして、よそ様の不用品を安く手に入れる。3Rの内の「リサイクル」を掲げながら「リユース」「リデュース」に貢献している私どものマーケット。今後も実行委員会の取り組みが問われていきます。

NPO法人埼玉エコ・リサイクル連絡会
<http://www.townnavi.info/eco-risa>
[e-mail:ecorisa-npo@fuyo-hin.com](mailto:ecorisa-npo@fuyo-hin.com)

彩の国リサイクルデータバンク
<http://www.fuyo-hin.com>
[e-mail:desk@fuyo-hin.com](mailto:desk@fuyo-hin.com)



皆様からの情報はこちらへ

リユース・リサイクル・その他、各地の情報をお寄せください。
エコ・リサ通信やホームページで情報発信のお手伝いをします。

2008定期総会開催決定！

日時 2008年5月17日（土）
午後1：30～4：30（受付1：15～）
会場 大宮ソニックシティビル 806号室
記念講演 3：00～4：30

テーマ「埼玉県内にある産廃による巨大ごみ山：現状と問題」

発表者：埼玉西部・土と水と空気を守る会 河登一郎さん

（エコ・リサ会員 所沢市民）

総会議案書・プログラム
は後日郵送いたします。

埼玉エコ・リサイクル連絡会の皆様に於かれましては、日頃より私ども青年会議所に対しましてご理解ご協力いただいておりますことに御礼申し上げます。

本年度、埼玉ブロック協議会は『動く！埼玉ブロック協議会 ～つながりが創る自立社会に向けて～』のスローガンのもと、2000名のメンバーと共に明るい豊かな社会の実現に向け取り組んで参ります。『動く！』それは地域社会のために、青年としての英知を勇氣と情熱を持って、継往開来の精神から主体変容を実践し、新たな価値を創出することであります。今までかつて無いほどのスピードで社会の制度やしくみが変わり行く今日において、批判や机上の空論で終わってしまつては、何もこの地域社会しいては日本をより良く、変えることなんてできません。何かを変えたいと思うのであれば、まず自分自身から変えていかねばならないと思っております。私たち一人ひとりが理念に基づく明確なビジョンを持ち、「動く！」ことにより、多様なつながりから“自信”と“誇り”が育まれ、自立した市民・地域・社会を創ると、私は確信します。本年は環境問題がよりクローズアップされることと思いますが、県内各地の特性を活かしながら、たくさんの市民の方々と行政、企業や様々な団体の皆さまと共に地域に根ざした運動を展開して参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

『4時間耐久 eco 駅伝 in 埼玉スタジアム』

主催：エコ駅伝 in 埼玉スタジアム実行委員会

1月27日(日)埼玉スタジアム2002で行われたこの大会は地球環境を徹底的に配慮したスポーツイベントを目指し『3R』のもっとも大切なReduce(省エネ、省資源)を基本として、印刷物や紙容器などを排除したイベントです。

突撃！着ぐるみ隊が参加してきました!!!



『スポーツを愛する人』は『きれいな空気』『きれいな空』『きれいな水』の中で楽しみたいと誰もが思っています。

しかし、今の地球は『その思い』とは逆行するように『環境破壊』が進んでいます。『温暖化』『オゾン層破壊』『大気汚染』『砂漠化』etc・・・。

エコ・リサ 入会のご案内

NPO法人埼玉エコ・リサイクル連絡会は、幅広い環境保全型のリサイクル活動を、市民団体だけでなく、製造・流通・再生資源などの事業者、各種団体・個人が参加し、県や市町村行政とも、ネットワークを創ってすすめています。

会費(年間) 個人会員 3,000 円
団体会員 5,000 円
賛助会員 10,000 円 (1 口)
協賛バナー登録 50,000 円 (年間)

お願い：平成 18 年度の総会で会費の変更をご承認いただきました。

19 年度より上記の会費となりますのでお間違いのないようお願い致します。

活動活性化のため、エコ・リサでは、常時会員募集を行っています。よろしくお願いいたします。

* 振込み先・会費納入の際のご注意

郵便振替口座番号 00110-7-764571

加入者名 NPO 法人埼玉エコ・リサイクル連絡会

埼玉りそな銀行 大宮支店 普通 5392559

名義 特定非営利活動法人 埼玉エコ・リサイクル連絡会

郵便振替で入金される方は、お手数ですが通信欄に新規会員あるいは〇〇会員□□年度分と明記の上、お振り込みをお願いいたします。(事務局)

〒330-0046

事務所のご案内

さいたま市大宮区大門町 3-205 新井ビル303号室
(JR大宮駅東口から徒歩8分)

FAX 048-642-6163 <http://www.townnavi.info/eco-risa>

編集後記

今年度最後の通信を発行することが出来ました。地域でのイベント活動情報など、お待ちしております。 担当：宮田尚美

ホームページ協賛 《2007 年 10 月～2008 年 3 月》

(株)読売旅行春日部営業所：春日部市

<http://kasukabe.yomiuri-ryokou.co.jp/cat472657/index.html>

税理士法人 T&M ソリューション：草加市

<http://www.consultant.co.jp/>

ウエス屋

<http://www.uesuya.com/>

産廃上手

<http://www.ntt-me.co.jp/sanpai-jaws/>

パレットモール HOP100 彩

<http://www.hop100.com/>

タウンナビ埼玉

<http://www.townnavi.info/saitama/>

彩の国リサイクルデータバンク

<http://www.fuyo-hin.com/>

(社)日本青年会議所 関東地区埼玉ブロック協議会

<http://necco.info/>

順不同

賛助会員のご紹介

(株)谷澤商会：富士見市 吉見商事(株)：熊谷市

森田光一さん：東松山市 浜野 豊さん：越谷市

(株)小島鉄工所：川口市 竹並万吉さん：本庄市

(株)清水金物：秩父市 (株)大任工務店：熊谷市

(株)瀬山通：深谷市 (株)さしま通商：幸手市

コーエー・エコビジネス(株)：川口市

石倉労務管理事務所：上尾市

アルク設計事務所：上尾市 (株)高読：幸手市

税理士法人 T&M ソリューション：草加市

(有)山栄エクステリア：幸手市

ヒラタホーム(株)：さいたま市

(有)くらづくり本舗：川越市

(株)栄精機製作所：川口市

(株)アイビックス：さいたま市

ケイ・アール・ベンチャー(株)：蕨市

(株)猪木製作所：草加市

(有)国済自動車钣金工業所：深谷市

…順不同…2008 年 2 月末現在

ご支援・ご協力ありがとうございます。